

テーマ
「助けて」助けます」と言い合える世界に

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

小学生の子ども達が車いすの女性を助けてあげていて優しいと思ったのもし
いと思ったのでこの記事を選んだ。しかも高学年ではなく、一年生の四人でお
どろいた。ぼくは高学年で登校車の班長や委員会などの責任のある仕事を
をしているので、困っている人を助けるためにはどんなことをすればよいのかを
考えてみようと思った。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 昨年、交通事故で右半身に後遺症が残った女性が初めて乗った車い
すで上り坂をうまく上れなかった時には小学生四人が車いすを支えてくれた。その
後電車内などで健康者との間に壁を感じて心が暗くなることもあったけれど、小学
生の助けが心強く、うれしかった。この女性が感じたことが分かった。

②について 七目ろう者の女性はグループホームで共同生活をしている。コロナ禍でソシヤ
ル дистанスのための触れ合えなくなっている中でオンライン勉強会に勇気を出して
参加すると色々な人々が取り残されていると分かった。誰もが自然に助けてと言ひ合え
る社会になれたらとその女性は思っている。

①②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

①は困っている女性が小学生に助けもらった一方で②は自分から言わないとなかなか
助けてもらえないところがある。ぼくは困っている人がいたら助けたいと思
っているがどういふことが助けになって、ぼくに何ができるのか調べたい。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

図書館でバリアフリーについて調べると困っている人のためのなることが色々あって

子どもでもできることが多いと分かった。例えば高齢者への手助けは電車などで席をゆ
ずることはもちろんだ。ずねられたら大きな声でゆくりと答えたり、荷物を持ってあげるこ
とだ。障害者の方には物を落としたり時には拾ってあげたり、エレベーターや出入り口のドアの開
け閉めを手伝ってあげたりできる。実際この前ぼくの母は買い物袋を持ったおばあ
さんが階段を降りられなくなった時、先づ持って降りてあげていた。一方でバスを降
りる時に手を貸したら断られたこともあった。それでもみんなのバリアフ
リー③といふ本から、本当に助けてほしい人もいるからできるだけ声をかけ、断ら
れても文句にしないことが大切だと学んだ。ぼくも困っている人を助ける時には、手伝ってほ
しいかを確かめてから、自分ができるところをしようと思った。また困っている人が助
けてほしいと言えるようにならなければ自然と助け合う世界にはならない。そのために
ぼくが学校や登下校などで見本となり、下級生にもその行動を続けてほしいと思っ

発行日
令和三年
8月10日
発行所(氏名)

王子第二
小学校
第5学年
児童